

愛知県知事の事務部局における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領

(素案)

平成 年 月 日
訓令 号

(目的)

第1条 この要領(以下「対応要領」という。)は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号。以下「法」という。)第9条第1項の規定に基づき、また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針(平成27年2月24日閣議決定。以下「基本方針」という。)に即して、法第7条に規定する事項に関し、知事の事務部局に属する職員(非常勤職員を含む。以下「職員」という。)が適切に対応するために必要な事項を定めるものとする。

(不当な差別的取扱いの禁止)

第2条 職員は、法第7条第1項の規定のとおり、その事務又は事業を行うに当たり、障害(身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害をいう。以下この対応要領において同じ。)を理由として、障害者(障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの。以下この対応要領において同じ。)でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならない。これに当たり、職員は、別紙に定める留意事項に留意するものとする。

(合理的配慮の提供)

第3条 職員は、法第7条第2項の規定のとおり、その事務又は事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮(以下「合理的配慮」という。)の提供をしなければならない。これに当たり、職員は、別紙に定める留意事項に留意するものとする。

(監督者の責務)

第4条 職員のうち、課長相当職以上の地位にある者(以下「監督者」という。)は、障害を理由とする差別の解消を推進するため、次の各号に掲げる事項に留意して障害者に対する不当な差別的取扱いが行われないよう注意し、また、障害者に対して合理的配慮の提供がなされるよう環境の整備を図らなければならない。

- (1) 日常の執務を通じた指導等により、障害を理由とする差別の解消に関し、その監督する職員の注意を喚起し、障害を理由とする差別の解消に関する認識を深めさせること。
- (2) 障害者等から不当な差別的取扱い、合理的配慮の不提供に対する相談、苦情の申し出等があった場合は、迅速に状況を確認すること。
- (3) 合理的配慮の必要性が確認された場合、監督する職員に対して、合理的配慮の提供を適切に行うよう指導すること。

2 監督者は、障害を理由とする差別に関する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に対処しなければならない。

(懲戒処分等)

第5条 職員が、障害者に対し不当な差別的取扱いをし、若しくは、過重な負担がないにもかかわらず合理的配慮の不提供をした場合、その態様等によっては、職務上の義務に違反し、又は職務を怠った場合等に該当し、懲戒処分等に付されることがある。

(相談体制の整備)

第6条 愛知県に、その職員による障害を理由とする差別に関する障害者及びその家族その他の関係者(以下「相談者」という。)からの相談等に的確に対応するための相談窓口を次のとおり置く。

- (1) 総務部人事局人事課
 - (2) 各部局主管課
 - (3) 健康福祉部障害福祉課
 - (4) 本庁にあっては各部局主管課長が定める所属、地方機関にあってはそれぞれの長が定める部又は課相当の組織
- 2 前項の相談窓口は、手紙、電話、FAX、メールなど相談等を行おうとする者の任意の方法で、適切に受け付けるよう配慮しなければならない。
- 3 相談窓口は、相談者から相談の内容となる事実の詳細その他必要な情報を聴取し、事実確認をしたうえで、相談対象事案があると認めるときは、速やかに是正措置及び再発防止策等を探るものとする。
- 4 第1項の相談窓口に寄せられた相談等は、健康福祉部障害福祉課に集約し、相談者のプライバシーに配慮しつつ関係者間で情報共有を図り、以後の相談等において活用することとする。

(研修・啓発)

第7条 障害を理由とする差別の解消の推進を図るため、職員に対し、必要な研修・啓発を行うものとする。

- 2 新たに職員となった者に対しては、障害を理由とする差別の解消に関する基本的な事項について理解させるために、また、新たに監督者となった職員に対しては、障害を理由とする差別の解消等に関し求められる役割について理解させるために、それぞれ、研修を実施する。
- 3 職員に対し、障害の特性を理解させるとともに、障害者へ適切に対応するために必要なマニュアル等により、意識の啓発を図る。

附 則

この訓令は、平成 年 月 日から施行する。

別紙

愛知県知事の事務部局における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領に係る留意事項

第1 不当な差別的取扱いの基本的な考え方

法は、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、財・サービスや各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯などを制限する、障害者でない者に対しては付さない条件を付けることなどにより、障害者の権利利益を侵害することを禁止している。

ただし、障害者の事実上の平等を促進し、又は達成するために必要な特別の措置は、不当な差別的取扱いではない。したがって、障害者を障害者でない者と比べて優遇する取扱い（いわゆる積極的改善措置）、法に規定された障害者に対する合理的配慮の提供による障害者でない者との異なる取扱いや、合理的配慮を提供等するために必要な範囲で、プライバシーに配慮しつつ障害者に障害の状況等を確認することは、不当な差別的取扱いには当たらない。

このように、不当な差別的取扱いとは、正当な理由なく、障害者を、問題となる事務又は事業について、本質的に関係する諸事情が同じ障害者でない者より不利に扱うことである点に留意する必要がある。

第2 正当な理由の判断の視点

正当な理由に相当するのは、障害者に対して、障害を理由として、財・サービスや各種機会の提供を拒否するなどの取扱いが客観的に見て正当な目的の下に行われたものであり、その目的に照らしてやむを得ないと言える場合である。愛知県においては、正当な理由に相当するか否かについて、個別の事案ごとに、障害者、第三者の権利利益（例：安全の確保、財産の保全、損害発生の防止等）及び愛知県の事務又は事業の目的・内容・機能の維持等の観点に鑑み、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要である。

職員は、正当な理由があると判断した場合には、障害者にその理由を説明し、理解を得よう努めることが望ましい。

第3 不当な差別的取扱いの具体例

不当な差別的取扱いに当たり得る具体例は別表1のとおりである。なお、第2で示したとおり、不当な差別的取扱いに相当するか否かについては、個別の事案ごとに判断されることとなる。また、具体例については、正当な理由が存在しないことを前提としていること、さらに、それらはあくまでも例示であり、記載されている具体例だけに限られるものではないことに留意する必要がある。

第4 合理的配慮の基本的な考え方

1 障害者の権利に関する条約（以下「権利条約」という。）第2条において、「合理的配慮」は、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」と定義されている。

法は、権利条約における合理的配慮の定義を踏まえ、行政機関等に対し、その事務又は事業を行うに当たり、個々の場面において、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について、合理的配慮を行うこ

とを求めている。合理的配慮は、障害者が受ける制限は、障害のみに起因するものではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものとのいわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえたものであり、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、障害者が個々の場面において必要としている社会的障壁を除去するための必要かつ合理的な取組であり、その実施に伴う負担が過重でないものである。

合理的配慮は、愛知県の事務又は事業の目的・内容・機能に照らし、必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること、障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること、事務又は事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことに留意する必要がある。

2 合理的配慮は、障害の特性や社会的障壁の除去が求められる具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであり、当該障害者が現に置かれている状況を踏まえ、社会的障壁の除去のための手段及び方法について、「第5 過重な負担の基本的な考え方」に掲げる要素を考慮し、代替措置の選択も含め、双方の建設的対話による相互理解を通じて、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応がなされるものである。さらに、合理的配慮の内容は、技術の進展、社会情勢の変化等に応じて変わり得るものである。合理的配慮の提供に当たっては、障害者の性別、年齢、状態等に配慮するものとする。

なお、合理的配慮を必要とする障害者が多数見込まれる場合、障害者との関係性が長期にわたる場合等には、その都度の合理的配慮の提供ではなく、後述する環境の整備を考慮に入れることにより、中・長期的なコストの削減・効率化につながる点は重要である。

3 意思の表明に当たっては、具体的場面において、社会的障壁の除去に関する配慮を必要としている状況にあることを言語（手話を含む。）のほか、点字、拡大文字、筆談、実物の提示や身振りサイン等による合図、触覚による意思伝達など、障害者が他人とコミュニケーションを図る際に必要な手段（通訳を介するものを含む。）により伝えられる。

また、障害者からの意思表明のみでなく、知的障害や精神障害（発達障害を含む。）等により本人の意思表明が困難な場合には、障害者の家族、介助者等、コミュニケーションを支援する者が本人を補佐して行う意思の表明も含む。

なお、意思の表明が困難な障害者が、家族、介助者等を伴っていない場合など、意思の表明がない場合であっても、当該障害者が社会的障壁の除去を必要としていることが明白である場合には、法の趣旨に鑑みれば、当該障害者に対して適切と思われる配慮を提案するために建設的対話を働きかけるなど、自主的な取組に努めることが望ましい。

4 合理的配慮は、障害者等の利用を想定して事前に行われる建築物のバリアフリー化、介助者等の人的支援、情報アクセシビリティの向上等の環境の整備を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される措置である。したがって、各場面における環境の整備の状況により、合理的配慮の内容は異なることとなる。また、障害の状態等が変化することもあるため、特に、障害者との関係性が長期にわたる場合等には、提供する合理的配慮について、適宜、見直しを行うことが重要である。

5 知事の事務部局がその事務又は事業の一環として実施する業務を事業者に委託等する場合は、提供される合理的配慮の内容に大きな差異が生ずることにより障害者が不利益を受けることのないよう、委託等の条件に、対応要領を踏まえた合理的配慮の提供について盛り込むよう努めることが望ましい。

第5 過重な負担の基本的な考え方

過重な負担については、個別の事案ごとに、以下の要素等を考慮し、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要である。

職員は、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者にその理由を説明し、理解を得るよう努めることが望ましい。

- 事務又は事業への影響の程度（事務又は事業の目的、内容、機能を損なうか否か）
- 実現可能性の程度（物理的・技術的制約、人的・体制上の制約）
- 費用・負担の程度

第6 合理的配慮の具体例

第4で示したとおり、合理的配慮は、具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであるが、具体例としては、別表2のとおりである。

なお、記載した具体例については、第5で示した過重な負担が存在しないことを前提としていること、また、これらはいくまでも例示であり、記載されている具体例だけに限られるものではないことに留意する必要がある。

第7 障害特性に応じた対応について

障害者と接する際には、それぞれの障害特性に応じた対応が求められる。

代表的な障害特性と対応時に配慮すべき事項について別表3に簡単にまとめている。

このほか、障害児については、成人の障害者とは異なる支援の必要性がある。子どもは発達段階にあり、個々の子どもの発達の段階に応じて一人ひとりの個性と能力に応じた丁寧な配慮された支援を行う発達支援が必要である。また、子どもを養育する家族を含めた丁寧かつ早い段階からの家族支援が必要である。特に、保護者が子どもの障害を知った時の気持ちを出発点とし、障害を理解する態度を持つようになるまでの過程においては、関係者の十分な配慮が必要である。

別表1 不当な差別的取扱いに当たり得る具体例

対象所属	具体例
全所属共通	<ul style="list-style-type: none"> ○障害があることを理由に窓口対応を拒否する。 ○障害があることを理由に対応の順序を劣後させる。 ○障害があることを理由に書面の交付、資料の送付、パンフレットの提供等を拒む。 ○障害があることを理由に説明会、シンポジウム等への出席を拒む。 ○事務・事業の遂行上、特に必要ではないにもかかわらず、障害があることを理由に、来庁の際に付き添い者の同行を求めるなどの条件を付けたり、特に支障がないにもかかわらず、付き添い者の同行を拒んだりする。
福祉関係施設	<ul style="list-style-type: none"> ○サービスの利用を拒否する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的体制、設備体制が整っており、対応可能であるにもかかわらず、医療的ケアの必要な障害者、重度の障害者、多動の障害者の福祉サービスの利用を拒否する。 ・ 身体障害者補助犬の同伴を拒否する。 ○サービスの利用を制限する。（場所・時間帯などの制限） <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応を後回しにする。 ・ サービス提供時間や提供場所を限定する。 ・ サービスの利用に必要な情報提供を行わない。 ○サービスの利用に際し条件を付す（障害のない者には付さない条件を付す。） <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や介助者の同伴をサービスの利用条件とする。 ・ サービスの利用にあたって、他の利用者とは異なる手順を課す。（仮利用期間を設ける、他の利用者の同意を求めるなど） ○サービスの利用・提供にあたって、他の者とは異なる取扱いをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事、娯楽等への参加を制限する。 ・ 年齢相当のクラスに所属させない。 ・ 本人を無視して、介助者や付き添い者のみに話しかける。 ・ 本人（本人の意思を確認することが困難な場合はその家族等）の意思に反したサービス（施設への入所など）を行う。

対象所属	具体例
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○サービスの提供を拒否する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関や薬局において、人的体制、設備体制が整っており、対応可能であるにもかかわらず、障害があることを理由に診療・入院・調剤等を拒否する。 ・ 医療機関や薬局内に、身体障害者補助犬の同伴を拒否する。 ○サービスの提供を制限する。（場所・時間帯などの制限） <ul style="list-style-type: none"> ・ 診察などを後回しにすること、サービス提供時間を限定する。 ・ 診察室や病室の制限を行う。 ・ 医療の提供に際して必要な情報提供を行わない。 ○サービスの提供に際し条件を付す（障害のない者には付さない条件を付すこと） <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や介助者の同伴を診察・治療・調剤等の条件とする。 ○サービスの提供にあたって、他の者とは異なる取扱いをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人（本人の意思を確認することが困難な場合は家族等）の意思に反した医療の提供を行う。 ・ 病院や施設が行う行事等への参加や共用設備の利用を制限する。 ・ 診療等にあたって患者の身体への丁寧な扱いを怠る。 ・ 本人を無視して、介助者や付き添い者のみに話しかける。 ・ 大人の障害者に対して、幼児の言葉で接する。 ・ わずらわしそうな態度や、障害者を傷つけるような言葉をかける。 ・ 診察等にあたって患者の身体への丁寧な取扱いを怠る。
学校教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ○学校への入学の出願の受理、受験、入学、授業等の受講や研究指導、実習等校外教育活動、入寮、式典参加を拒むことや、これらを拒まない代わりとして正当な理由のない条件を付す。 ○試験等において合理的配慮の提供を受けたことを理由に、当該試験等の結果を学習評価の対象から除外したり、評価において差を付けたりする。

別表2 合理的配慮に当たり得る配慮の具体例

(1) 物理的環境への配慮

対象所属	具体例
全所属共通	<ul style="list-style-type: none"> ○段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする、携帯スロープを渡すなどする。 ○配架棚の高い所に置かれたパンフレット等を取って渡す。パンフレット等の位置を分かりやすく伝える。 ○目的の場所までの案内の際に、障害者の歩行速度に合わせた速度で歩いたり、前後・左右・距離の位置取りについて、障害者の希望を聞いたりする。 ○障害の特性により、頻繁に離席の必要がある場合に、会場の座席位置を扉付近にする。 ○車いすを配置している施設では必要に応じて利用を案内する。 ○多目的トイレが設置されている施設では必要に応じて案内する。 ○疲労を感じやすい障害者から別室での休憩の申し出があった際、別室の確保が困難であったことから、当該障害者に事情を説明し、対応窓口の近くに長椅子を移動させて臨時の休憩スペースを設ける。 ○不随意運動等により書類等を押さえることが難しい障害者に対し、職員が書類を押さえたり、バインダー等の固定器具を提供したりする。
福祉関係施設	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベーターがない施設の上下階に移動する際、マンパワーで移動をサポートする。 ○電子メール、ホームページ、ファックスなど多様な媒体で情報提供、利用受付を行う。 ○電光表示板、磁気誘導ループなどの補聴装置の設置、音声ガイドの設置を行う。 ○館内放送を文字化したり、電光表示板で表示したりする。
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベーターがない施設の上下階に移動する際、マンパワーで移動をサポートする。 ○電子メール、ホームページ、ファックスなど多様な媒体で情報提供、予約受付、案内を行う。 ○電光表示板、磁気誘導ループなどの補聴装置の設置、音声ガイドの設置等、配慮や工夫を行う。 ○障害者に配慮したナースコールの設置を行う。(息でナースコールができるマルチケアコール、機能障害者用押しボタンなど) ○施設内放送を文字化したり、電光表示板で表示したりする。 ○ICT(コンピューター等の情報通信技術)を活用したコミュニケーション機器(音声を変換する、表示された絵などを選択することができる機器など)を設置する。 ○外見上、障害者であると分かりづらい患者(難聴者など)の受付票にその旨がわかる連絡カードなどを添付するなど、スタッフ間の連絡体制を工夫する。 ○診療の予約時などに、患者から申し出があった自身の障害特性などの情報を、スタッフ間で事前に共有する。

対象所属	具体例
学校教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の警報音等が聞こえにくい障害者に対し、災害時に職員が直接災害を知らせたり、緊急情報を視覚的に受容することができる警報設備等を用意したりする。 ○移動に困難のある学生等のために、通学のための駐車場を確保したり、参加する授業で使用する教室をアクセスしやすい場所に変更したりする。 ○聴覚過敏の生徒等のために教室の机・椅子の脚に緩衝材を付けて雑音を軽減する、視覚情報の処理が苦手な生徒等のために黒板周りの掲示物等の情報量を減らすなど、個別の事案ごとに特性に応じて教室環境を変更する。 ○介助等を行う保護者、支援学生、支援員等の教室への入室、授業や試験でのパソコン入力支援、移動支援、待合室での待機を許可する。

(2) 意思疎通の配慮

対象所属	具体例
全所属共通	<ul style="list-style-type: none"> ○筆談、読み上げ、手話、点字、拡大文字などのコミュニケーション手段を用いる。 ○会議資料等について、点字、拡大文字等で作成する際に、各々の媒体間でページ番号等が異なりうることに留意して使用する。 ○視覚障害のある委員に会議資料等を事前送付する際は、読み上げソフトに対応できるように電子データ（テキスト形式）で提供する。 ○意思疎通が不得意な障害者に対し、絵カード等を活用して意思を確認する。 ○駐車場などで通常、口頭で行う案内を、紙にメモをして渡す。 ○書類記入の依頼時に、記入方法等を本人の目の前で示したり、わかりやすい記述で伝達したりする。本人の依頼がある場合には、代読や代筆といった配慮を行う。 ○比喩表現等が苦手な障害者に対し、比喩や暗喩、二重否定表現などを用いずに説明する。 ○知的障害者から申し出があった際に、ゆっくり、丁寧に、繰り返し説明し、内容が理解されたことを確認しながら対応する。また、なじみのない外来語は避ける、漢数字は用いない、時刻は24時間表記ではなく午前・午後で表記するなどの配慮を念頭に置いたメモを、必要に応じて適時に渡す。
福祉関係施設	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文書の点字版、拡大文字版、テキストデータ、音声データ（コード化したものを含む）の提供 ○手話、要約筆記、筆談、図解、ふりがな付文書を使用する等、わかりやすい説明を行う。 ○必要に応じて、手話通訳や要約筆記者を配置する。 ○口話が読めるようマスクを外して話をする。 ○ICT（コンピューター等の情報通信技術）を活用したコミュニケーション機器（音声を文字変換する、表示された絵などを選択することができる機器など）を設置する。
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文書の点字版、拡大文字版、テキストデータ、音声データの提供 ○身振り、手話、要約筆記、筆談、図解、ふりがな付文書を使用するなど、わかりやすい説明を行う。 ○必要に応じて、手話通訳や要約筆記者を配置する。 ○声がよく聞こえるように、また、口の動きや表情を読めるようマスクを外して話をする。 ○ICT（コンピューター等の情報通信技術）を活用したコミュニケーション機器（音声を文字変換する、表示された絵などを選択することができる機器など）を設置する。

(3) ルール・慣行の柔軟な変更

対象所属	具体例
全所属共通	<ul style="list-style-type: none"> ○順番を待つことが苦手な障害者に対し、周囲の者の理解を得た上で、手続き順を入れ替える。 ○立って列に並んで順番を待っている場合に、周囲の者の理解を得た上で、当該障害者の順番が来るまで別室や席を用意する。 ○スクリーンや板書等がよく見えるように、スクリーン等に近い席を確保する。 ○車両乗降場所を施設出入口に近い場所へ変更する。 ○愛知県の敷地内の駐車場等において、障害者の来庁が多数見込まれる場合、通常、障害者専用とされていない区画を障害者専用の区画に変更する。 ○他人との接触、多人数の中にいることによる緊張により、不随意の発声等がある場合、当該障害者に説明の上、施設の状況に応じて別室を準備する。 ○非公表又は未公表情報を扱う会議等において、情報管理に係る担保が得られることを前提に障害のある委員の理解を援助する者の同席を認める。
福祉関係施設	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の特性に応じた休憩時間の調整などのルール、慣行を柔軟に変更する。 ○パニック等を起こした際に静かに休憩できる場所を設ける。
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の特性に応じて施設のルール、慣行を柔軟に変更する。（診察等で待つ場合、患者が待ちやすい近くの場所で待っていただく、順番が来たら電話で呼び込むなど）。 ○パニック等を起こした際に静かに休憩できる場所を設ける。

対象所属	具体例
<p>学校教育機関</p>	<p>○入学試験において、本人・保護者の希望、障害の状況等を踏まえ、別室での受験、試験時間の延長、点字や拡大文字、音声読み上げ機能の使用等を許可する。</p> <p>○点字や拡大文字、音声読み上げ機能を使用して学習する生徒等のために、授業で使用する教科書や資料、問題文を点訳又は拡大したものやテキストデータを事前に渡す。</p> <p>○知的発達の違いにより学習内容の習得が困難な生徒等に対し、理解の程度に応じて、視覚的に分かりやすい教材を用意する。</p> <p>○肢体不自由のある生徒等に対し、体育の授業の際に、上・下肢の機能に応じてボール運動におけるボールの大きさや投げる距離を変えたり、走運動における走る距離を短くしたり、スポーツ用車椅子の使用を許可したりする。</p> <p>○日常的に医療的ケアを要する生徒等に対し、本人が対応可能な場合もあることなどを含め、配慮を要する程度には個人差があることに留意して、医療機関や本人が日常的に支援を受けている介助者等と連携を図り、個々の状態や必要な支援を丁寧に確認し、過剰に活動の制限等をしないようにする。</p> <p>○慢性的な病気等のために他の生徒等と同じように運動ができない生徒等に対し、運動量を軽減したり、代替できる運動を用意したりするなど、病気等の特性を理解し、過度に予防又は排除をすることなく、参加するための工夫をする。</p> <p>○治療等のため学習できない期間が生じる生徒等に対し、補講を行うなど、学習機会を確保する。</p> <p>○読み・書き等に困難のある生徒等のために、授業や試験でのタブレット端末等のICT機器使用を許可したり、筆記に代えて口頭試問による学習評価を行ったりする。</p> <p>○発達障害等のため、人前での発表が困難な生徒等に対し、代替措置としてレポートを課したり、発表を録画したもので学習評価を行ったりする。</p> <p>○学校生活全般において、適切な対人関係の形成に困難がある生徒等のために、能動的な学習活動などにおいてグループを編成する時には、事前に伝えたり、場合によっては本人の意向を確認したりすること。また、こだわりのある生徒等のために、話し合いや発表などの場面において、意思を伝えることに時間を要する可能性があることを考慮して、時間を十分に確保したり個別に対応したりする。</p>
<p>文化芸術施設</p>	<p>○移動に困難のある障害者を早めに入場させ席に誘導したり、車椅子を使用する障害者の希望に応じて、決められた車椅子用以外の客席も使用できるようにしたりする。</p>

別表3 障害特性に応じた対応について

◆視覚障害（視力障害・視野障害・色覚障害・光覚障害）

	摘 要
主 な 特 性	<p>○先天性の場合もあるが、最近では糖尿病性網膜症などで受障される人も多く、高齢者では、緑内障や黄斑部変性症が多い。</p> <p>○視力障害（※）：視覚的な情報を全く得られない又はほとんど得られない人と、文字の拡大や視覚補助具等を使用し保有する視力を活用できる人に大きく分けられる。 ※全盲、弱視といわれることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視力をほとんど活用できない人の場合、音声、触覚、嗅覚など、視覚以外の情報を手がかりに周囲の状況を把握している。 ・ 文字の読みとりは、点字に加えて最近では画面上の文字情報を読み上げるソフトを用いてパソコンで行うこともある。（点字の読み書きができる人ばかりではない。） ・ 視力をある程度活用できる人の場合は、補助具を使用したり文字を拡大したり近づいて見るなどの様々な工夫をして情報を得ている。 <p>○視野障害：目を動かさずに見ることのできる範囲が狭くなる。 「求心性視野狭窄」見える部分が中心だけになって段々と周囲が見えなくなる。 遠くは見えるが足元が見えず、つまづきやすくなる。 「中心暗転」 周囲はぼんやり見えるが真ん中が見えない。 文字等、見ようとする部分が見えなくなる。</p> <p>○色覚障害：色を感じる眼の機能が障害によりわかりづらくなる状態。（色が全然わからないというよりは、一定の色がわかりづらい人が多い。）</p> <p>○光覚障害：光を感じその強さを区別する機能が、障害により調整できなくなる状態 暗順応（明→暗で目が慣れてくること）や、明順応（暗→明で目が慣れてくること）がうまくできない。</p>
主 な 対 応	<p>○音声や点字表示など、視覚情報を代替する配慮。</p> <p>○中途受障の人では白杖を用いた歩行や点字の触読が困難な人も多いため留意が必要。</p> <p>○声をかける時には前から近づき「○○さん、こんにちは。△△です。」など自ら名乗る。</p> <p>○説明する時には「それ」「あれ」「こっち」「このくらいの」などと指差し表現や指示代名詞で表現せず、「あなたの正面」「○○くらいの大きさ」などと具体的に説明。</p> <p>○普段から通路（点字ブロックの上等）に通行の妨げになるものを置かない、日頃視覚障害者が使用しているものの位置を変えないなど周囲の協力が不可欠。</p>

◆聴覚・言語障害（ろうあ・難聴）

	摘 要
主 な 特 性	<p>○先天性のろう者の場合は、手話でコミュニケーションをとる人も多い。</p> <p>○難聴者は補聴器や人工内耳で聴覚を補完する。</p> <p>○人工内耳を装着している場合、スピーカーを通じる等、残響や反響のある音は、聞き取りにあまり効果が得られにくい。</p> <p>○聴覚障害は外見上わかりにくい障害であり、その人が抱えている困難も他の人からは気づかれにくい側面がある。</p> <p>○聴覚障害者のコミュニケーション方法には手話、筆談、口話など様々な方法があるが、どれか一つで十分ということではなく、多くの聴覚障害者は話す相手や場面によって複数の手段を組み合わせるなど使い分けている。</p> <p>○聴覚の活用による言葉の習得に課題があることにより、聴覚障害者の国語力は様々であるため、筆談の場合は、相手の状況にあわせる。</p>
主 な 対 応	<p>○手話や文字表示など、聴覚情報を代替する配慮。</p> <p>○人工内耳を装着し、残響や反響のある音を聞き取ることが困難な場合には、代替する対応への配慮。（磁気誘導ループの利用など。）</p> <p>○音声だけで話すことは極力避け、視覚的なより具体的な情報も併用。</p> <p>○スマートフォンなどのアプリに音声を変換できるものがあり、これらを使用すると筆談を補うことができる。</p>

◆視覚と聴覚の重複障害（盲ろう）

	摘 要
主 な 特 性	<p>○視覚と聴覚の重複障害の人を「盲ろう」と呼んでいるが、障害の状態や程度によって様々なタイプに分けられる。</p> <p><見え方と聴こえ方の組み合わせによるもの></p> <ol style="list-style-type: none"> ①全く見えず聴こえない状態の「全盲ろう」 ②見えにくく聴こえない状態の「弱視ろう」 ③全く見えず聴こえにくい状態の「盲難聴」 ④見えにくく聴こえにくい状態の「弱視難聴」 <p><各障害の発症経緯によるもの></p> <ol style="list-style-type: none"> ①盲（視覚障害）から聴覚障害を伴った「盲ベース盲ろう」 ②ろう（聴覚障害）から視覚障害を伴った「ろうベース盲ろう」 ③先天的、あるいは乳幼児期に視覚と聴覚の障害を発症する「先天性盲ろう」 ④成人期以後に視覚と聴覚の障害が発症する「成人期盲ろう」 <p>○盲ろう者がそれぞれ使用するコミュニケーション手段は、障害の状態や程度、盲ろうになるまでの経緯、あるいは生育歴、他の障害との重複の仕方によって異なり、介助方法も異なる。</p> <p>○テレビやラジオを楽しんだり本や雑誌を読むことなどもできず、家族といってもほとんど会話がなため、孤独な生活を強いられることが多い。</p>

主 な 対 応	<p>○盲ろう者関係機関に相談し、対応に関する助言を受ける。</p> <p>○障害の状態や程度に応じ視覚障害や聴覚障害の人と同じ対応が可能な場合がある。</p> <p>○同様な対応が困難な場合には、手書き文字や触手話、指点字などの代替する対応への配慮。</p> <p>○言葉の通訳に加えて、視覚的・聴覚的情報についても意識的に伝える。 (例) 状況説明として、人に関する情報(人数、性別等)や環境に関する情報(部屋の大きさや机の配置、その場の雰囲気等)など。</p>
------------------	---

◆肢体不自由者(車椅子使用)

摘 要	
主 な 特 性	<p>○脊髄損傷(対麻痺又は四肢麻痺、排泄障害、知覚障害、体温調節障害など。)</p> <p>○脳性麻痺(不随意運動、手足の緊張、知的障害重複の場合もある。)</p> <p>○脳血管障害(片麻痺、運動失調)</p> <p>○病気等による筋力低下や関節損傷などで歩行が困難な場合もある。</p> <p>○ベッドへの移乗、着替え、洗面、トイレ、入浴など、日常の様々な場面で援助が必要な人の割合が高い。</p> <p>○車椅子利用者にとっては、段差や坂道が移動の大きな妨げになる。</p> <p>○重度であれば電動車椅子を使用する場合もある。</p>
主 な 対 応	<p>○段差をなくす、車椅子移動時の幅・走行面の斜度、車椅子用トイレ、施設のドアを引き戸や自動ドアにするなどの配慮。</p> <p>○机アプローチ時に車椅子が入れる高さや作業を容易にする手の届く範囲の考慮。</p> <p>○ドア、エレベータの中のスイッチなどの機器操作のための配慮。</p> <p>○視線をあわせて会話する。</p> <p>○脊髄損傷者は体温調整障害があるため、部屋の温度管理に配慮。</p>

◆肢体不自由者(車椅子以外)

摘 要	
主 な 特 性	<p>○脳血管障害(歩行可能な片麻痺、運動失調)</p> <p>○麻痺の程度が軽い場合、杖や装具歩行が可能な場合や、切断者などで義足を使用して歩行可能な場合は、日常生活動作は自立している人が多い。</p> <p>○失語症や高次脳機能障害がある場合もある。</p> <p>○長距離の歩行が困難であったり、階段、段差、エスカレーターや人ごみでの移動が困難な場合もあり、配慮が必要。</p>
主 な 対 応	<p>○上下階に移動するときのエレベータ設置・手すりの設置。</p> <p>○滑りやすい床など転びやすいので、雨天時などの対応。</p> <p>○トイレでの杖おきの設置や靴の履き替えが必要な場合に椅子を用意するなどの配慮。</p> <p>○上肢の障害があれば、片手や筋力低下した状態で作業ができる配慮。</p>

◆失語症

摘 要	
主 な 特 性	<p>○聞くことの障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音は聞こえるが「ことば」の理解に障害があり「話」の内容が分からない。 ・単語や簡単な文なら分かる人でも早口や長い話になると分からなくなる。 <p>○話すことの障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことをうまく言葉や文章にできない。 ・発話がぎこちない、いいよどみが多くなったり、誤った言葉で話したりする。 <p>○読むことの障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を読んでも理解が難しい。 <p>○書くことの障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き間違いが多い、また「てにをは」などをうまく使えない、文を書くことが難しい。
主 な 対 応	<p>○表情がわかるよう、顔を見ながら、ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける。</p> <p>○一度でうまく伝わらない時は、繰り返して言ったり、別のことばに言い換えたり、漢字や絵で書いたり、写真・実物・ジェスチャーで示したりすると理解しやすい。</p> <p>○「はい」「いいえ」で答えられるように問いかけると理解しやすい。</p> <p>○話し言葉以外の手段(カレンダー、地図、時計など身近にあるもの)を用いると、コミュニケーションの助けとなる。</p>

◆高次脳機能障害

交通事故や脳血管障害などの病気により、脳にダメージを受けることで生じる認知や行動に生じる障害。身体的には障害が残らないことも多く、外見ではわかりにくい「見えない障害」とも言われている。

摘 要	
主 な 特 性	<p>○以下の症状が現れる場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶障害：すぐに忘れてしまったり、新しい出来事を覚えることが苦手なため、何度も同じことを繰り返したり質問したりする。 ・注意障害：集中力が続かなかったり、ぼんやりしてしまい、何かをするとミスが多く見られる。 二つのことを同時にしようとすると混乱する。 主に左側で、食べ物を残したり、障害物に気が付かないことがある。 ・遂行機能障害：自分で計画を立てて物事を実行したり、効率よく順序立てられない。 ・社会的行動障害：ささいなことでイライラしてしまい、興奮しやすい。 こだわりが強くなり表れたり、欲しいものを我慢できない。 思い通りにならないと大声を出したり、時に暴力をふるったりする。 ・病識欠如：上記のような症状があることに気づかず、できるつもりで行動してトラブルになる。 <p>○失語症(失語症の項を参照)を伴う場合がある。</p> <p>○片麻痺や運動失調等の運動障害や眼や耳の損傷による感覚障害を持つ場合がある。</p>

主 な 対 応	<p>○本障害に詳しいリハビリテーション専門医やリハ専門職、高次脳機能障害支援普及拠点機関、家族会等に相談する。</p> <p>○記憶障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手がかりがあると思い出せるので、手帳やメモ、アラームを利用したり、ルートマップを持ち歩くなどする。 ・自分でメモを取ってもらい、双方で確認する。 ・残存する受傷前の知識や経験を活用する。(例えば、過去に記憶している自宅周囲では迷わず行動できるなど。) <p>○注意障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間なら集中できる場合もあるので、こまめに休憩を取るなどする。 ・ひとつずつ順番にやる。 ・左側に危険なものを置かない。 <p>○遂行機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順書を利用する。 ・段取りを決めて目につくところに掲示する。 ・スケジュール表を見ながら行動したり、チェックリストで確認する。 <p>○社会的行動障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情をコントロールできない状態にあるときは、上手に話題や場所を変えてクールダウンを図る。 ・予め行動のルールを決めておく。
------------------	---

◆内部障害

摘 要	
主 な 特 性	<p>○心臓機能、呼吸器機能、腎臓機能、膀胱・直腸機能、小腸機能、肝機能、HIV による免疫機能のいずれかの障害により日常生活に支障がある。</p> <p>○疲れやすく長時間の立位や作業が困難な場合がある。</p>
主 な 対 応	<p>○常に医療的対応を必要とすることが多い。</p> <p>○ペースメーカーは外部からの電気や磁力に影響をうけることがあるので注意すべき機器や場所などの知識をもつ</p> <p>○排泄に関し、人工肛門の場合、パウチ洗浄等特殊な設備が必要となることへの配慮。</p> <p>○人工透析が必要な人については、通院の配慮。</p> <p>○呼吸器機能障害のある方は、慢性的な呼吸困難、息切れ、咳等の症状があることを理解し、息苦しくならないよう、楽な姿勢でゆっくり話をしてもらうよう配慮。</p> <p>○常時酸素吸入が必要な方は、携帯用酸素ボンベが必要な場合があることを理解。</p>

◆難病

摘 要	
主 な 特 性	<p>○神経筋疾病、骨関節疾病、感覚器疾病など様々な疾病により多彩な障害を生じる。</p> <p>○常に医療的対応を必要とすることが多い。</p> <p>○病態や障害が進行する場合が多い。</p>
主 な 対 応	<p>○専門の医師に相談する。</p> <p>○それぞれの難病の特性が異なり、その特性に合わせた対応が必要。</p> <p>○進行する場合、病態・障害の変化に対応が必要。</p> <p>○排泄の問題、疲れやすさ、状態の変動などに留意が必要。</p>

◆知的障害

摘 要	
主 な 特 性	<p>○生下時からの、または概ね18歳頃までの発達期に生じた脳の障害が原因。</p> <p>○「考えたり、理解したり、読んだり、書いたり、計算したり、話したり」する等の脳の知的な機能に発達の遅れが生じる。</p> <p>○金銭管理、会話、買い物、家事などの社会生活への適応に困難を抱えるなどの課題を持つ。</p> <p>○主な原因として、ダウン症候群(ダウン症※1)などの染色体異常、または先天性代謝異常によるものや、脳症や外傷性脳損傷などの脳の疾患があるが、原因が特定できない場合もある。</p> <p>○てんかんを合併する場合もある。</p> <p><u>ダウン症(※1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・染色体の突然変異によって起こり、通常、21番目の染色体が1本多くなっていることから「21トリソミー」とも呼ばれる。 ・特性として、筋肉の低緊張、多くの場合、知的な発達の遅れがある。 ・心臓に疾患を伴う場合がある。
主 な 対 応	<p>○言葉による説明などを理解しにくいいため、ゆっくり、ていねいに、わかりやすく話すことが必要。</p> <p>○文書は、漢字を少なくしてルビを振るなどの配慮で理解しやすくなる場合があるが、ひとり一人の障害の特性により異なる。</p>

◆自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○対人関係の苦手さ（場の雰囲気や相手の気持ちを理解するのが苦手。） ○コミュニケーションの苦手さ（一方的に話し続けるなど、コミュニケーションのやり取りが苦手。） ○限定した興味、こだわり、想像力の障害（こだわりが強い、パターン化傾向、イメージを広げることが苦手。）
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○肯定的、具体的、視覚的な伝え方の工夫（何かを伝えたり依頼する場合には、必ずその意図や目的を伝えたり、図やイラストなどを使って説明するなど。） ○スモールステップによる支援（新しく挑戦する部分は少しずつにする。） ○感覚過敏がある場合は、音や肌触り、室温など感覚面の調整を行う。

◆学習障害（限局性学習障害）

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○「読む」「書く」「計算する」の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手。
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○得意な部分を使って情報アクセスし、表現できるようにする。（ICTの活用など。） ○苦手な部分について、課題の量・質を適切に加減する、柔軟な評価をする。

◆注意欠陥多動性障害（注意欠如・多動性障害）

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○注意力を維持することの苦手さ（うっかりして同じ間違いを繰り返す、すぐ飽きる、じっくり腰を落ち着けて取り組む場面を避ける、先延ばしする。） ○多動性（じっとしてられない、おしゃべりが止まらない。） ○衝動性（辛抱できない、約束や決まり事を守れない。）
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○気の散りにくい座席の位置の工夫、分かりやすいルール提示などの配慮。 ○ストレスケア（傷つき体験への寄り添い、適応行動が出来たことへのこまめな評価。）

◆精神障害

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○精神疾患の発病により、長期にわたり、日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態が続く。 ○精神障害の原因となる精神疾患は様々であり、原因となる精神疾患によって、その障害特性や制限の度合いは異なる。 ○代表的な精神疾患として、統合失調症や躁うつ病（気分障害）等がある。 ○障害の特性もさまざまであるため、積極的に医療機関と連携を図ったり、専門家の意見を聴くなど関係機関と協力しながら対応する。

<統合失調症の場合>

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○発症の原因はよく分かっていないが、100人に1人弱かかる、極めて一般的な病気 ○「幻覚」や「妄想」が特徴的な症状だが、その他にも様々な生活のしづらさが障害として表れる。 ○陽性症状 <ul style="list-style-type: none"> ・幻覚：幻聴が主で、人の話し声が聞こえたりする。 ・妄想：明らかにあり得ない内容を確認してしまい、周りが訂正しようとしても受け入れられない。 ○陰性症状 <ul style="list-style-type: none"> ・打ち込んできた趣味、楽しみにしていたことに興味を示さなくなる。 ・人づきあいを避けて、引きこもるようになる。 ・身なりにまったく構わなくなり、入浴もしなくなる。 など ○認知や行動の障害 <ul style="list-style-type: none"> ・考えにまとまりがなく、何が言いたいかわからない。 ・相手の話の内容がつかめない。 など ○感情の障害 <ul style="list-style-type: none"> ・感情の動きが少なくなる。 ・他人の感情や表情についての理解が苦手になる。 ・その場にふさわしい感情表現ができなくなる。 など
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○統合失調症は脳の病気であることを理解し、病気について正しい知識を学ぶ必要がある。 ○薬物療法が重要であるので、治療を続けることを支援し、治療しながらやれることが多いことを知る必要がある。 ○社会との接点を保つことも治療となるため、病気と付き合いながら、他者と交流したり、仕事に就くことを応援する。 ○いちどきに多くの情報が入ると混乱するので、一度に伝える情報は一つに絞り、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける。

<躁うつ病（気分障害）の場合>

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちが落ち込んだり（うつ状態）、活発（躁状態）になったりを繰り返す。 ○やる気が出ない、疲れやすい、死にたくなるなどの症状がでる。（うつ状態） ○ほとんど寝ずに働き続けたり、しゃべり続けたりする。（躁状態）
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○家族を含む周囲の人が病気について理解する。 ○専門家に相談したり、専門機関で治療を受けるように勧める。

<依存症（アルコール）の場合>

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○飲酒のコントロールができない。 ○自己中心的になったり、嘘をついたり、否定的になったりする。 ○暴言や暴力、徘徊、妄想をとまなう場合もある。
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○家族を含む周囲の人が病気について理解する。 ○専門家に相談したり、専門機関で治療を受けるように勧める。

<てんかんの場合>

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○突然意識を失って反応がなくなるなどの発作がおきる。 ○発作の間は意識がなくなり、周囲の状況がわからない状態になる。
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○周囲が誰もがかかる可能性があるありふれた病気であることを理解する。 ○発作が起こっていないほとんどの時間は普通の生活が可能なので、発作がコントロールされている場合は、過剰に活動を制限しない。

<認知症の場合>

摘 要	
主な特性	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症は、単一の病名ではなく、種々の原因となる疾患により認知機能が低下し、生活に支障が出ている状態。 ○原因となる主な疾患として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症（ピック病など）がある。 ○認知機能の障害の他に、行動・心理症状（BPSD）と呼ばれる症状（不穏、興奮、幻覚、妄想など）がある。
主な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが認知症とともに生きることになる可能性があり、また、誰もが介護者等として認知症に関わる可能性があるなど、認知症は皆にとって身近な病気であることを理解する。 ○各々の価値観や個性、想い、人生の歴史等を持つ主体として尊重し、できないことではなくできることに目を向けて、本人が有する力を最大限に活かしながら、地域社会の中で本人のなじみの暮らし方やなじみの関係が継続できるよう、支援していく。 ○BPSD については、BPSD には、何らかの意味があり、その人からのメッセージとして聴くことが重要であり、BPSD の要因として、さまざまな身体症状、孤立・不安、不適切な環境・ケア、睡眠や生活リズムの乱れなどに目をむける。